

## 4 基本的な考え方

### 1 基本理念

広町地区は、これまで緑の保全運動やトラスト運動等を通じて多くの市民や市民団体が関わり守り育てられてきた。市民等にとってはかけがえのない緑地となっている。このような広町地区に関わる経緯、自然環境の特性、社会的なニーズあるいは市民の意見を踏まえて、以下を基本理念として設定する。

#### <後世への緑の継承>

歴史ある鎌倉の緑を市民とともに後世へ継承する。

#### <多様で良好な自然環境の保全>

多様性の高い自然環境特性の保全を図りつつ、良好な自然環境の形成を目指し、古都のイメージを支える都市林として保全・育成を図る。

#### <人と自然が織り成す良好な自然の空間の保全・創出>

自然の回復力や再生、遷移等のメカニズムを活用しながら、生き物の生息空間の創出やきめ細かな管理等により、人が介在した自然な空間の保全・創出を目指す。

#### <広町地区に求められる社会的ニーズへの貢献>

野生生物の保全、里地・里山の保全、生態的ネットワークの形成といった広町地区に求められる役割への対応とこれらの社会的な課題への貢献を目指す。

さらに基本理念をもとに広町地区を都市林として保全・活用する上での基本コンセプトを以下のように設定する。

#### 【基本コンセプト】

古都鎌倉の緑を継承し、  
人と自然が織り成す、多様で良好な都市林の保全創出をめざす  
古都の自然ふれあい都市林— 広町の森

### 2 基本方針

広町地区の自然環境特性をふまえ、保全・活用にあたっての基本方針を以下のように設定する。

#### 自然環境の多様性の保全

広町地区最大の特徴である多様性の高さを、将来にわたって維持するとともに、可能な範囲で適切な管理等により多様性の向上・改善を図る。

広町地区がもつ複雑な谷戸地形や人の関わりにより成立してきた多様な植生、多様な生き物の生息環境をつくり出している水環境等、多様性に作用する様々な特性を把握し、多様性の維持・向上につながる計画づくりを目指す。

#### 貴重種・注目種の保全

比較的まとまった規模の緑地や多様な環境を反映し、かつて良くみられたが今日では貴重となっている里山の身近な生き物が比較的多く残っており、それらの保全の必要性は高い。種の保全にあたっては、各々の種の生育・生息環境を把握し、種が安定して生息・生育できる環境の保全を図る。

#### 古都のイメージを支える緑地景観の保全と緑地内の里山的な景観の保全

広町地区のまとまった樹林は住宅に囲まれた立地の中で地域の良好な緑地景観の創出に貢献しているとともに、緑地内においても谷戸地形をベースにした奥行きある谷とそれを囲む樹林が一体となった里山的な景観が成立している。

保全・活用にあたっては、地域景観の構成要素としての価値と、住宅地内において豊かな自然を感じさせる里山的な景観としてのまとまりについても留意した計画づくりを行う。

#### 自然環境の資源としての活用

広町地区において里山を代表する環境である谷戸の湿地環境やコナラ林等の樹林では、季節の草花や昆虫等、里山の身近な生き物とのふれあいの場や環境教育の場としての活用の価値が高く、保全を前提にした上で、自然環境の容量に応じた活用を図る。

#### 鎌倉らしさ・広町らしさの活用

広町地区には、鎌倉彫に使用されているウルシ林や地域の方に親しまれてきた尾根のサクラ、さらに豊かな林床植物と一体となったスギ植林等、郷土性を感じさせる資源が存在している。これらの鎌倉の文化的要素や自然的要素は、広町地区の都市林を特徴づけるものであり、最大限に活かした計画づくりを行う。

